

「2025年の崖」は“巨大市場”だ。地方エネルギー会社のリーダーが仕掛けるO&M業界DX革命。「個人の絶望」から「社会の希望（MentorPro）」へ

日本の未来を想う盟友対談 小川 聡嗣（東邦ガスエンジニアリング）×大谷 吉弘（ウイングアーク1st）

2025年11月、ウイングアーク1st株式会社主催による国内最大級のビジネスカンファレンス「UdataNOW25」が、ザ・プリンスパークタワー東京にて開催された。今年のテーマ「進化と不変の選択肢」を象徴するセッションとして注目されたのが、東邦ガスエナジーエンジニアリング小川聡嗣氏の登壇だ。「2025年の崖」を「巨大市場」と捉え直し、O&M業界のDX革命を仕掛ける。個人のスキルをデジタル資産化する「MentorPro構想」は、業界の枠を超え、高校生との探究学習といった教育現場との「共創」にまで広がる。構想を共に実現する「MentorProパディ」への熱い呼びかけも行われ、注目を集めた。日本の未来を想う盟友対談から、社会インフラの未来を探る。



大谷 皆様、こんにちは。ウイングアーク1stの大谷です。本日はUdataNOW25にご来場いただき、誠にありがとうございます。私は、中部エリアの営業担当として普段、東邦ガスさんを始め、中部エリアで提案活動をさせていただいております。

さて、今回のセッションのテーマはこちら...「迫る2025年の崖」、皆様も一度は耳にしたことがある深刻なテーマです。しかし、今日ここで繰り返される



のは、単なる問題提起ではありません。この大きな崖を新たな巨大市場に変え、技術者一人ひとりが輝く未来を創ろうとする...一人のリーダーの物語です。早速ご紹介しましょう。東邦ガスエナジーエンジニアリング株式会社小川聡嗣さんです。小川さん、本日はよろしくお願いたします。

小川 こんにちは。本日はこのような素晴らしい機会をいただき、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

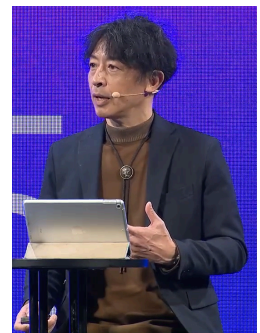
大谷 それでは、私から小川さんを紹介させていただきます。三菱重工でキャリアをスタートされ、東邦ガスでは環境エネルギー政策やエネルギーソリューションの責任者を歴任。そして、東邦ガスエナジーエンジニアリングでは、本部長としてO&M、オペレーション&メンテナンス事業を抜本的に改革し、現在は、全

社のDX推進もリードされている...まさに、技術と企画、現場と経営、その全てを知り尽くした、インフラ業界のキーパーソンです。

原点は「現場の悲痛な声」。技術承継の失敗が招く未来とは

小川 ありがとうございます。私はこれまで、目の前の課題をどう解決するか、そればかり考えてきました。だからこそ、O&M業界が抱える課題に強い当事者意識を持っています。

経歴には出てきませんが、8年前の2017年、保守の現場を支えるサービス員の連続離職がありました。『小川さん、また一人、若手が辞めてしまった』という現場保守サービス委託先の悲痛な声が私の行動の原点です。またベテランが定年退職前にこぼす『自分たちが引退したら、この技術はどうなるんだ?』という言葉も引っ掛かりました。



皆様の会社のベテランの顔を一人、思い浮かべてください。その方がなくなった時、お客様に『サービスレベルが落ちた』と言わせてしまう未来でいいのでしょうか？本日は、これらの解決策をご紹介します。

大谷 ありがとうございます。では、本日はこの二人で、アジェンダにありますようにO&M業界の現状から、具体的なITツール活用やDXの取り組み、そして未来を創る壮大な構想まで、余すところなくご紹介していきます。皆様、どうぞ最後までお付き合いください。では、小川さん、まず皆様に、小川さんがいらっしゃる会社や、O&M業界についてご紹介いただけますでしょうか。

小川 私達の会社は「モノづくりの集積地」と言われ

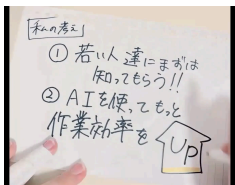
る愛知県に本社がある、東邦ガスグループの一員です。東邦ガスグループでは、308万件のお客様に、都市ガスや電気、再生可能エネルギーをお届けするだけでなく、工場や商業施設などで、エネルギーを効率良く使っていただくための、設備の設計、建設、維持管理を手掛ける「エネルギーと設備のプロフェッショナル集団」です。

迫る「静かなる危機」。日本の社会インフラが地方から崩壊する日

小川 続いて、こちらがO&Mの現況です。日本には「標準産業細分類」といわれる産業が1,500あります。上水道や下水道などの粒の事業が1,500あります。その多くでO&Mは必要不可欠ですが、貴重なユーザーノウハウが、企業や業界という「サイロ」に閉じ込められています。これは、未開拓の「隠れた巨大市場」と言えます。一方で、加速する人手不足により、事業継続が危惧されます。

ここで未来世代の高校生がO&Mを維持するために作ってくれた一分弱の動画を流します。かなり速度の速い動画ですが、そのまま流します。前半は画像のみ、後半に音声が入ります。

『＜再生＞O&M仕事って何？...トラブル防ぐ、安心安全稼働を維持...、被害を最小限に...メンテナンスが不十分だと...トラブル防げない...O&Mの役割は...安全、長期的な運用を実現...O&Mの維持には...、若い人達にまず知ってもらおう。AIを使ってもっと作業効率UP...』という声がこのほかにも多数ありました。



なぜ、これほど重要な仕事の価値や技術が、次の世代に伝わりにくいのか？DXが進んでいないのか？...ここにも、O&M業界の課題が隠れています。

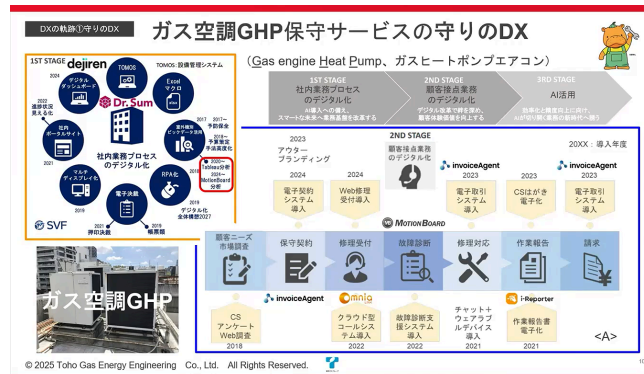
大谷 いやあ、若者の率直な意見、非常に新鮮ですね。私たちの快適な生活が、こうした目に見えないO&Mのプロの皆様によって支えられている。実は私達ウイングアーク1stも、様々な業界のDXをお手伝いする中で、この「実践知のサイロ化」こそが日本全体のDXを阻む最大の課題だと感じています。そして、そのO&Mの現場が今、非常に厳しい状況にあると伺いました。

小川 その通りです。2030年代に地方都市のO&Mは、現場の担い手不足から、崩壊していくかもしれません。社会インフラは、自治体消滅同様、地方から崩れていきます。このままでは、地方の社会インフラの品質維持は困難になる...これは、もはや「静かなる危機」です。

大谷 「静かなる危機」...非常にインパクトのある言葉ですね。その危機に対して、具体的にどのようなことから着手されたのでしょうか。

まずは「現場の孤独」を救え。8年がかりで築いた「守りのDX」

小川 私たちのDXは、現場で戦う一人の仲間を救うことから始まりました。私たちの主力商品の一つ...「ガスエンジンで動く業務用エアコンGHP」。写真のように炎天下の屋上で、たった一人で奮闘する保守サービス員がいます。数年前まで、彼らの武器は「マニュアル」と「自らの経験」だけでした。これでは、匠の技どころか、基本技能すら伝承できない...。「静かなる危機」は、私たちの足元にも、確実に忍び寄っていました。



「守りのDX」は、この「現場の孤独」を解消するために8年前に始めた「小さな改革」の積み重ねです。ご覧の通り、第1ステージで「社内業務プロセス」を、第2ステージで「顧客接点」の業務を、それぞれ一気通貫でデジタル化しました。

このデジタル化のプロセスの多くで、ウイングアークさんの製品を活用しています。古くから帳票基盤「SVF」やデータ分析基盤「Dr.Sum」で足元を固め、近年では電子帳票「invoiceAgent」で取引先との紙のやり取りを減らし、そしてBIツール「MotionBoard」やAIエージェント「dejiren」で、現場のデータ活用を一気に加速させました。

目指したのは「システムの個別最適」ではなく、データで全体を繋ぐ「全体最適」です。これにより、システム運用負荷の軽減と、データ活用基盤の構築を実現しています。そして現在、第3ステージ「AI活用」に取り組んでいます。

右上の気になるキャラクターは、東邦ガスのGHP保守サービスのオリジナルキャラクター「ひぼかん」です。

小川 では内容に戻ります。デジタル化推進の象徴として、まず、ベテランサービス員の「経験と勘」をデータに変えました。「i-Reporter」で作業報告書をデジタル化し、データを、基幹システム「Dr.Sum」に蓄積します。

しかし、データはそのままでは無価値です。そこで導入したのがBIツール「MotionBoard」でした。37万件の故障データを元に「故障診断支援システム」を作りました。ベテランの「経験と勘」に頼っていた現場が「データ」という共通の武器を手にした瞬間です。

小川 MotionBoardの故障診断システムに、エラーコードなどを入力すると、季節も加味した修理方法をレコメンドしてくれます。これにより、若手でも「一発修理」できる確率が高まりました。しかし、データだけでは、現場の孤独を完全に救うことはできません。

GHP保守サービスは、東邦ガスと保守サービス委託会社が連携する...まさにチーム戦です。リアルタイムな情報共有も求められます。そこで、今、AIエージェント「dejiren」の活用を始めています。これにより、リアルタイムで仲間と繋がる、まさに「現場を孤独にさせないサポート」が実現しつつあります。

このように、ウイングアークさんの製品は、私たちのDXのステージが上がる度に現れる新たな課題を解決してくれる相棒として、いつも私たちを支えています。大谷さん、そして漢那部長、ありがとうございます。

大谷 素晴らしいですね。「勤」が「デジタル資産」に変わり、データという共通言語で現場が繋がっていく...。まさにDXの理想的な進化ですね。しかし小川さん、これはあくまで「守り」。つまりデータを整備した後、社会全体の資産に変える「攻め」が必要だったということでしょうか。

小川 その通りです。ここからが、私たちの本丸...「攻めのDX」。未来を賭けた挑戦です。

「攻めのDX」へ。個人の経験を、業界全体の「デジタル資産」に変える挑戦

小川 こちらが「攻めのDX」で、現在、第4ステージ「デジタルノウハウの開放」に取り組んでいます。



大谷 「2025年の崖」「遠出やマインド」「MentorPro構想」など、気になるワードがたくさんありますね。一体どんなことを考えているんですか。

小川 2018年に政府が警告した「2025年の崖」を受け、翌年、理想未来からの逆算思考で「デジタル化全体構想」を描きました。「遠出やマインド」や「mi-kan-sei」は、行動哲学です。

そして、私と大谷さんとの出会いは、2024年の春、

BIツール「MotionBoard」の営業でご来社いただいたときでした。当初から日本初の世界に通じるプラットフォームを作りたい、やるからには純国産製品で、という思いがありました。MotionBoardが純国産のBIツールであったことも導入のきっかけです。

そして今年、2025年は、MentorPro構想に取っ手をつけて持ちやすくし、構想を広める一年です。将来は、MentorProパティという公式な共同体をつくり、シリーズ展開を経て、海外進出を目指します。輸出産業をO&M側から支援します。設備と共に、O&Mの実践知のプラットフォーム「MentorPro」を輸出します。もちろんMotionBoardと共にです。

大谷 いよいよ本題ですね。その名も「MentorPro」...。小川さん、これは一体、どういうものなのでしょう？

核心構想「MentorPro」— それは技術者のための“キャリアアップ・アドベンチャー”

小川 MentorProとは「希望」です...。個人の経験が、企業の壁を壊し、社会全体の「希望」に変わる、それを形にしたのが、技術者のための新たな舞台...「MentorPro」です。そのコンセプトを一言で言うならば...「O&M技術者のための、キャリアアップ・アドベンチャー」です。

大谷 キャリアアップ・アドベンチャーですか。単なる業務ツールではなく、技術者自身のキャリアをデザインする仕組み、ということですね。なんだかゲームのようでワクワクしますね。具体的には、どんなことができるのでしょうか？

小川 もし、あなたの隣に、いつも寄り添うベテランの師匠がいたら、どうでしょうか？...もし、あなたの頑張りや、会社を超えて通用する一生モノの資産になったら、ワクワクしませんか？...

こちらの表をご覧ください。これまで現場では、何かあっても頼れるのは自分の経験と勘だけ。スキルもなかなか評価されず、キャリアは会社の中で閉じていました。

それが、MentorProの世界では一変します。AIや全国の仲間と繋がり、孤独な現場は「共に闘う現場」へ。頑張りやスキルは「デジタルバッジ」という資産になり、ゲームのように成長を実感できます。そして、デジタルバッジは会社の外でも通用する「実力の証明書」となり、キャリアの選択肢が広がります。

大谷 いったい、なぜ、そんな壮大なことが今、実現できるようになったんですか？

小川 ベースとなるのは、もちろんO&Mのビッグデータ、ユーザーノウハウです。

そして3つのテクノロジー、BIツールとAI、ブロックチェーン技術を活用したNFT、すなわち個人のスキル

や実績を資産化するデジタル証明、この3つのコア技術が「希望の光」となりました。

これらにより、メーカーだけでなく、多くのユーザーが持っているデータ・ノウハウを社会の資産にできます。

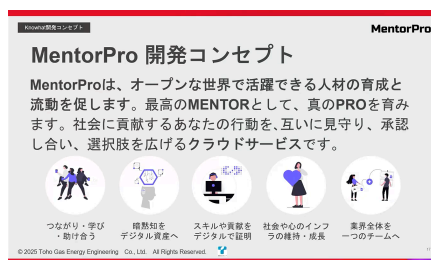
大谷 デジタル証明ですか。つまり、ゲームのように、頑張りが、目に見える形で証明される...ということですね。改めて開発コンセプトを教えてください。

「囲い込み」から「共創」へ。なぜ東邦ガスは自社のノウハウを開放するのか

小川

MentorProは...
「オープンな世界で活躍できる人材の育成と流動を促します」

...



MentorProが目指すのは...「つながり」「学び」「助け合う」ことで、個人の暗黙知を業界全体の「デジタル資産」に変え、社会インフラの「維持・成長」に貢献する世界です...。全国の悩める中小事業者をひとつのチームにします...

当初は、GHP保守サービス員の囲い込みを想定しましたが、方針を換えました...。それは、企業内で人材を囲い込むという小さな考えは捨て、業界全体で人材を育成・流動させるという遥かに大きな市場を創造する戦略的な方針転換でした。

大谷 小川さん、ここまで壮大な構想を伺ってきましたが、ここからは、技術者たちが冒険を進めるための具体的な「道具」、つまりアプリケーションの機能について教えていただけますか？

小川 こちらが、MentorProを支えるアプリ「Knowwhat」、冒険の入り口となるログイン画面です。

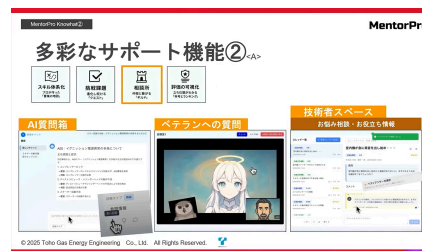


最大の特徴は、Gmailなどでログインできる手軽さと、その裏側にある「unWallet」というブロックチェーン技術です。これにより、ユーザー自身のスキルや経歴といった大切なデータを、会社ではなく「個人が主権を持って管理する世界」を実現します...。「自己主権型」この考えが非常に重要です。

大谷 自分のデータは自分で守り、活用する時代なんですね。ログインした先には、どんな世界が広がっているんですか？

小川 そこには、もう孤独な現場はありません。いつでも相談できる「AI質問箱」、アバターを着たベテランと話せる「会議室」、全国の仲間と悩みを共有でき

る「掲示板」など...、まさにRPGの「ギルド」や「相談所」のような機能で、技術者同士が繋がり、助け合える空間が広がっています。



会議室や掲示板での会話は、全てテキスト化、特殊加工され、日々、AIは賢くなっていきます。

大谷 仲間と繋がる...、現場の心理的安全性も高まりそうですね。頑張った成果は、どのように認められるのでしょうか？

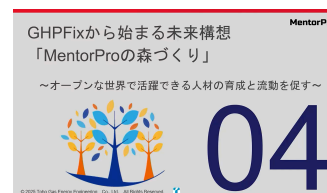
小川 そこがMentorProの核心部分です。現場での経験や、クリアしたミッションは「教育訓練・資格・講習」などのスキルマネジメント体系に基づく「スキル認定」を経て、改ざん不可能な「デジタルバッジ」として記録されます。これは、ステージランクやランク内の順位で成長・キャリア形成を可視化できるだけでなく、会社の枠を超えて通用する「一生モノのデジタル資産」となります。

そして、こちらがMentorPro GHPFixの利用者の声です。確かな喜びの価値を届けています。

大谷 スキルが資産になる。技術者の働き方が、根底から変わりそうですね。私たちBIツールの専門家から見ても、膨大な現場データを『個人の価値』にまで昇華させ、技術者の不安や課題を、テクノロジーとの繋がりで見事に解決しています。

構想は「森づくり」へ。教育現場と連携し、未来の「担い手」を育て

大谷 さて、プレゼンもいよいよ最終章です...。スライドのタイトルにある「MentorProの森づくり」...これは、一体どのような未来なんでしょうか？



小川 MentorPro構想は、GHPFixだけでは終わりません。ここからは、未来構想「MentorProの森づくり」についてお話しします。

私たちは、ガス空調GHP分野でデータ活用・キャリアアップ支援の仕組みとして「GHPFix」を確立しました。この仕組みを起点に、個人のスキル、実績、貢献という「信頼」が、会社という枠を超えて所有できる「デジタル資産」となりました。

そして、O&Mのあらゆる現場には、まだ光が当たっていない「実践知」が眠っています...。「実践知と人材」をO&M業界全体で見守り、人材をポジティブに流動させることで、社会インフラを維持する。この構

想は、その可能性を秘めています。プレイヤー側の視点でいうと、O&Mに興味を持った人は、O&M業界の中を渡り歩き、自身のキャリアを極めていくイメージです。

大谷 一つの業界から、社会インフラ全体へ…。まさに「実践知のプラットフォーム」ですね。業界・企業の「サイロ」を越えて、ユーザーノウハウを「社会の共有財産」にするという、日本のO&M業界全体をアップデートする壮大なビジョンにワクワクします。

小川 これは決して夢物語ではありません。こちらが、構想の展開ステップです。まず東邦ガスグループはPhase I、MentorProの第一弾…GHPFixによるO&M変革を実践します。ガス空調GHP業界における技能承継の成功モデルを確立します。しかし、東邦ガスグループはGHPFixまでです。

その先、Phase IIは「喜びの価値の提供範囲」を拡大するステージです。ここからは「オープン・イノベーション」によって、志を同じくするパートナーと共に、新たなスタンダードを創り上げたいです…。将来、売上や利益といった従来の指標よりも「社会システムの維持にどれだけ貢献したか」というデータの価値、すなわち「データ資産」そのものが評価される時代が来ると確信しています…。

そして、Phase IIの先で、二度目の方針転換をしました。

大谷 「喜びの価値の提供」ですか。Phase I、IIで業界の「今」を救う…。それでは、Phase IIの先にある、さらに戦略的な方針転換について、具体的に教えていただけますか？

小川 それがこの「MentorPro for Education構想」です。本構想は、単なる技能承継から、未来の「担い手」そのものを育てる、教育分野との「共創」です。例えばマイナースポーツが、競技人口が少なくとも熱狂的なファンに支えられているように、O&Mの仕事も、社会を支える『プロフェSSIONナルな世界』です。

これまで「人を定着させる」ことに注力してきましたが、視点を増やしました。「どうすれば、このO&Mの仕事の奥深さや面白さを、未来世代に正しく伝え、ミスマッチなく仲間になってもらえるか」…その答えが「頑張りの資産化」です。社会人になってから身につけたスキルをバッジ化するだけでなく、学生時代の挑戦や貢献も「デジタル資産」として持ち運べるようにします。

大谷 学生時代の頑張りが、社会で通用する「資産」になる…。まさに、キャリア教育の革命ですね。その具体的な仕組みや構成が、このスライドですか？



小川 はい。未来世代に、O&Mの仕事の面白さや社会的な意義を知ってもらうために、バーチャル空間で

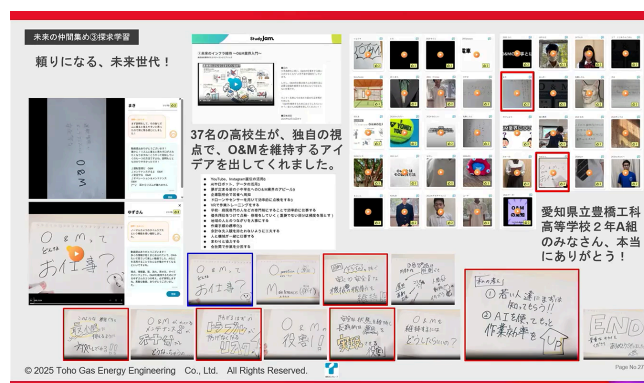
の職業体験や、探究学習の授業と連携します。そこで生まれた彼らの挑戦や学びを「デジタルバッジ」として資産化します。ボランティアなど多様な社会貢献の実績も、全てが彼らの資産となります。MentorProの売上の一部は部活支援に投資します。これにより、学生、先生、企業、社会、そして保護者の「五方良し」の世界を創ります。そのためにも「自己主権型のデータ管理」が必須でした。

大谷 素晴らしい…。「オープンバッジ」の活用で、教育と社会をシームレスに繋ぐ挑戦ですね。しかし、これほど壮大な構想は、もう始まっているんですよね？

小川 はい。実践中です。例えば探究学習では、外部の学習プラットフォーム「StudyJam」を活用し、未来世代が、O&M業界の「リアルな社会問題」の解決に挑戦しています。こちらの写真が、先月10月6日、愛知県立豊橋工科高校での探求学習の授業風景です。

大谷 高校生ですか。彼ら・彼女らの視点は、私たちにとっても刺激になりそうですね。

小川 その通りです。こちらがO&Mの課題解決に取り組んだ2年A組の成果です。一例として、本日の冒頭で、ゆずさんの動画に、まきさんの音声を足した作品をご覧くださいました。今回、約40名の高校生が、O&Mという職業を初めて意識し、情報発信してくれました。私たちは、彼ら彼女らを、単に「教える対象」とは見えていません。未来を共創する「仲間」であり、すでにMentorPro構想にヒントを与えています。彼ら彼女らが、未来の希望です。

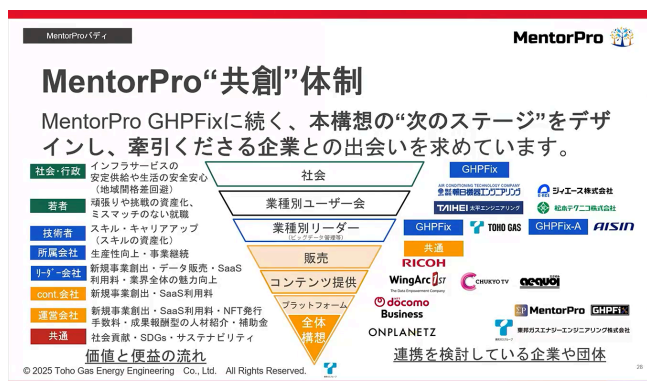


大谷 高校生が、単なるインターンではなく「共創バディ」として、リアルな社会問題の解決に参加する。…MentorPro構想のスケールは、私の想像を遥かに超えていました。これはもう、企業の枠、世代の枠を超えたオープン・イノベーションそのものですね。

あなたも「指側」になれ。未来を共創する「バディ」への呼びかけ

小川 その通りです。この壮大な構想は、一企業では到底実現できません。また、未来創造には政治の力も必要です。これから私自身、そこにも注力していきます…。

皆様にお伝えしたいのが、この「共創体制」です。



GHPFixの次のステージ、MentorProの森づくりの構想を共にデザインして下さるオーナー企業や業界別リーダー企業との出会いも求めています。新たな業界標準となるプラットフォームをデザインし、社会問題を一緒に解決しませんか？

また、本日は、本構想をこれまで一緒に育てていただいた、スライドに記載の企業様にも多数ご参加いただいています。この場をお借りしてお礼申し上げます。特に、企画の壁打ちに何度もご協力いただいた、リコー様、中京テレビ様、NTTドコモビジネス様、そしてOnplanetz様、ありがとうございました。

大谷 小川さん、業界、教育、そして行政をも巻き込む「ボディの輪」の社会的意義が、会場の皆様にも伝わったと思います。それでは最後にこの会場の皆様へ、メッセージをお願いします。

小川 今日はありがとうございました。今回のテーマ「2025年の崖」という大きな危機は、見方を変えれば、業界や組織の壁を壊して、日本の未来を共創する絶好のチャンスです。「また若手が辞めてしまった」という悲痛な声から始まったこの物語は今、未来を創る希望に変わろうとしています。



このポーズは、敬愛するウイングアーク1stさんのポーズです。そして、今の私にとっては「O&Mのラストワンマイルを担う、中小事業者をワンチームにする」という誓いのポーズです。そして本日、私は「この指とまれ」をするために、この場にきました。しかし、皆様には、単にこの指にとまってほしいわけではありません。この物語の主人公は、皆様かもしれません。皆様自身が、それぞれの場所で「この指とまれ」と発信する「指側」になってほしいのです。

そして、MentorPro構想は誰のものでもありません。本日は、地方のエネルギー会社の一員として、全国の社会インフラが、これからも存続し、次の世代も豊か

に暮らすことを願い、登壇しました。早期にMentorProのある世界を実現できるのであれば、皆様で本構想をオマージュし、実現してもらっても構いません。それほど実現したい構想です。

最後に、この壮大な冒険を支える行動哲学「とうでやマインド」をご紹介します。この言葉は「透明性を愛する」「できっこないことをやってみる」「やがてみんなを豊かにする」という3つの物語のかしら文字を繋げたものです。これは「明日から遠出や」と心躍るように準備、行動し、その体験を広めることで、周囲に喜びを提供する姿勢を示しています。

私たちは、とても遠くを目指しています。遠出をします。未開の地に辿り着くには、大きなパーティが必要です。次に、お会いするときはぜひ「MentorProボディ」としてお会いしましょう。本日は、本当にありがとうございました。

大谷 小川さん、ありがとうございました。

(セッション終了)

T2-B03

11.12 15:20 - 15:50

BI-データ活用 事例 MotionBoard dejiren DX-AI人材育成 2025年の崖

迫る2025年の崖、技術承継のタイムリミット ~社会インフラを支えるO&Mのラストワンマイル戦略~

ベテランの経験に基づく業務が多いO&M（運用管理・保守点検）の世界では、ベテラン勢の退職と担い手不足を背景に、技術承継問題が待ったなしの状況です。本セッションでは、この課題に向き合い業務効率化と人材育成を加速させている具体的な取り組みをご紹介します。さらに、一社の努力に留まらず、業界全体で知見を共有し成長する「業界革新プラットフォーム」構想の全貌を初公開。すぐ使える現場DXから、未来を見据えた持続可能な社会インフラ像まで、DXや人材育成に悩む全ての方に必ず役立つヒントをお持ち帰りいただきます。



東邦ガスエナジーエンジニアリング株式会社
DX推進プロジェクトリーダー エンジニアリング営業本部長(兼務)
小川 聡嗣 氏

一30年超の現場知見を武器に、インフラ業界の変革に挑む一
1992年、三菱重工業にて環境プラントのプロセスエンジニアとしてキャリアをスタート。2003年に東邦ガスへ転じ、環境エネルギー政策から多様なエネルギーソリューション（ガス空調保守、地域冷暖房など）の責任者を歴任。一貫して大規模プロジェクトを技術と企画の両面からリード。2024年より現所属会社のファシリテーターマネジメント本部長として、O&M（オペレーション&メンテナンス）事業の抜本的改革を推進。2025年からは、これまでの全ての経験を糧に、全社DX推進プロジェクトリーダーとエンジニアリング営業本部長を兼務。データとデジタル技術を駆使し、インフラ業界のO&Mの新たな価値創造の先頭に立つ。



WingArc 1st
The Data Equipment Company
ウイングアーク1st株式会社
営業本部 リージョナル営業統括部 中部営業部 中部第1G
大谷 吉弘

2021年、ウイングアークに中途入社。それまでは飲食店向けの業務システムの営業に従事。ウイングアークに入社後は中部営業部に配属となり、パートナーセールスを中心に一部お客様にはダイレクトアプローチを行い、中部エリアのお客様向けに帳票・データ活用基盤の営業を担当している。

